

1 【活動の趣旨】

本校では、グランドの横を流れる葉山川を基点とした環境学習「葉山川学習」を各学年が行っている。中でも5年生が行う「葉山川生き物調査」は、長年続いており、子ども達が大変楽しみにしている活動である。

しかし、実際に川に入るという危険を伴う活動であるため、子ども達の安全を確保するための対策を十分にとる必要があり地域の学習ボランティアの力はなくてはならないものである。

2 【特徴的な活動内容】

○「葉山川生き物調査（5年生）」

学習ボランティアの方々には、子ども達が安全に活動できるよう、数日前から現地の草刈りをし、当日は朝早くから川の深みを確認し危険箇所を示す旗を立てて活動範囲のロープを張り、観察場所のテント設営をし、活動時には子どものグループに付き添って川に入って支援をしてくださる。



【地域の方と魚をつかむ】

子ども達は、歓声をあげながら魚などを捕まえた後、グループごとに捕まえた生き物を見せ合い観察する。まとめとして、魚に詳しい学習ボランティアから琵琶湖や川に生息する外来種が環境に及ぼす影響を学び、川の美化とともにふるさとの川の環境への意識を新たにしました。

3 【実施に当たっての工夫】

事業の成果は大きいですが、準備と支援に多大な負担を伴い、学習ボランティアの高齢化で存続が難しい状況にあった。そこで、今年度は川の活動場所を学校近くへ移して荷物運搬の労力を減らし、現地の桜並木の影を利用しテント設営の手間を省いた。川が浅い場所なので魚の獲れる量を懸念したが、子どもや高齢者には安全な活動場所であった。さらに、保護者に支援を呼びかけたので、学習ボランティアの数も増えた。



【外来魚の話聞く】

4 【事業の成果】

- ・川へ入って遊ぶことを普段は禁止しているが、この事業では学習として川で生き物を捕まえるという普段はできない魅力的な活動が体験でき、ふるさとの自然のよさを体で感じる事ができた。
- ・学習ボランティアとともに活動する中で、魚の獲り方を教えてもらったり魚の名前を聞いたりしながら、学習ボランティア（地域の人たち）と子どもとのつながりができ、関係が深まった。

5 【事業実施上の課題・今後の連携・協働活動実施に向けて】

事業を持続可能なものにするために、今回のような活動の見直しを図ったことで、学習ボランティアの高齢化に伴う不安点が軽減されたように、他の事業においても必要に応じた見直しをしていくことが大切である。